

総務くらし建設委員会会議録

開 会 日	令和4年3月14日（月）午前9時30分
閉 会 日	令和4年3月14日（月）午前11時09分
場 所	長久手市役所本庁舎 2階 委員会室
出席委員	委員長 山田けんたろう 副委員長 伊藤真規子 委 員 石じまきよし 大島令子 ささせ順子 なかじま和代 野村ひろし 山田かずひこ
欠席委員	加藤和男
欠 員	な し
会議事件のため出席した者の職氏名	くらし文化部長 浦川 正 次長 日比野裕行 環境課長 富田俊晴 ごみ減量推進係長 大谷 悠 主任 志津茉友子 <div style="text-align: right;">計5人</div>
職務のため出席した者の職氏名	議長 伊藤祐司 議会事務局長 水野敬久 書記 浅井良和
会 議 録	別紙のとおり

別紙

委員長 開会宣言

議長 あいさつ

所管事務調査

1 もえるごみ袋増額について

環境課長 令和5年7月1日から予定しているもえるごみ袋増額に向けて、令和3年10月から12月までの地域意見交換会を32回開催し、194人が参加した。地域意見交換会では、まず本市のごみの現状、組成調査の内容、ごみ減量目標、ごみ袋増額の根拠、増収分の使い方について説明した。それを踏まえて、参加者から意見を伺ったり、参加者同士での意見交換を行った。地域意見交換会で説明した内容を抜粋して説明する。

過去10年間の家庭から出るごみの排出量をみると、平成28年度以降、1人1日当たりのごみ排出量が減少せず、停滞している。組成調査では、燃えるごみの約30パーセントにあたる量の資源ごみが混入している。また、出された生ごみの水分が多いこともわかった。プラスチック製容器包装が、もえるごみ袋に対する体積の3分の1を占めており、それを資源として出していただければ、LサイズからSサイズに下げることができると考えられる。

令和2年度の1人1日あたりの家庭から出る燃えるごみ排出量の実績は469グラムであり、令和5年度の減量目標である395グラムから乖離している。こうした現状を踏まえて、減量効果のある取り組みとして、ごみ袋の増額について価格の根拠と研究データなどを説明した。県内で有料化した自治体の価格とごみ減量率を紹介し、増収した財源の使い方の案をお知らせした。

次に、地域意見交換会で出た主なご意見と、会場で答弁した内容について説明する。もえるごみ袋増額の主目的がわかりにくい。晴丘センターの建て替えのための基金や財政負担の軽減が目的ではないのかとの問いに対し、もえるごみ袋の増額は、ごみの減量や資源の分別を増やすことを目的としていると答弁した。15円から50円の値上げは高過ぎるので、段階的に引き上げられないかとの問いに対し、段階的な値上げについては、ごみの抑制効果が薄れることから考えていないと答弁した。15円から50円でも安い。もっと高くしてもよいとの意見も出た。減量目標を立て、期限までに市民が目標を達成できなければ値上げとすべきではないかとの問いに対し、ごみの減量については、なかなか啓発が成果につながっていないことから、ごみ減量や資源の分別の促進に効果があるとされるごみ袋の増額を検討したものであると答弁した。8月号

広報折り込みチラシの内容が唐突すぎる。「予定」という記載があり、もう決まっている内容だと市民は思っているとの問いに対し、表記についての工夫が足りなかったことについてお詫びした。紙おむつや剪定枝などの減量困難な品目は増額対象から外してほしいとの問いに対し、当初の考えでは想定していなかったが、減量できないものであると考えているので、検討していきたいと答弁した。ごみ袋を増額すると、不法投棄が増えるのではないかと心配しているとの問いに対し、有料化した自治体に出向き、担当者から聞き取りをしたところ、有料化を起因とする不法投棄は見られなかったと聞いていると答弁した。生ごみのごみ袋の4割を占めるのであれば、リサイクルや堆肥化を検討してほしいとの問いに対し、検討していく課題であると認識していると答弁した。市民にのみ負担を強いるのではなく、事業者にも、過剰包装など家庭ごみを減らすような商品開発や提供をするよう働きかけてほしいとの問いに対し、つくる側、購入する側、双方の意識の変化が必要であると感じていると答弁した。値上げ後に、ごみ減量目標を達成したら値下げしてほしいとの問いに対し、現時点で目標達成後の値下げについては考えていないが、本市の情勢により価格が変動する可能性はあると答弁した。現在のもえるごみ袋は、増額後も使えるのかとの問いに対し、買いだめを考慮し、価格改定後は、現在のごみ袋は使えない制度とし、家庭に残ったごみ袋については、新しい袋との交換を考えていると答弁した。ごみ袋増額以外にごみ減量の方法はなかったのかとの問いに対し、ごみ減量には、ごみ自体の減量と資源化の推進しかないと考えており、啓発と新たな分別を進めるしかないと考えていると答弁した。プラスチック製容器包装やもえないごみの指定袋は値下げしてはどうかとの問いに対し、ほぼ市場価格であり、もえるごみ袋との差別化を図るために値段を据え置くと答弁した。ごみ収集車を増台するとカーボンニュートラルの取り組みに反するのではないかととの問いに対し、収集車の増台は、収集時間の短縮が図られ、サービスが向上すること、収集回数の増加は、より資源を出しやすくすると考え提案しているが、二酸化炭素の増加や人件費の増加もあることから、この点も考慮し、調整していきたいと答弁した。市民への動機付けとして、例えば、ごみを持ち込むとポイントが付与され、それがたまったらごみ袋がもらえるなど、市、市民、民間がウィンウィンの関係になると、市民も楽しく、ごみ減量ができるのではないかととの問いに対し、大変興味深い考えであることから、意見として参考とさせていただくと答弁した。東海市や碧南市のように、一定枚数を無料配布できないかととの問いに対し、減量効果が期待できないことから考えていないと答弁した。目的が「ごみの減量」ではなく「財源確保」と説明した方が市民の理解をえられやすいのではないかととの問いに対し、今回の増額については、ごみの減量化が目的であり、増収分については、ごみ減量の啓発やサービス向上に充てさせていただく考えであると答弁した。

市民の意識改革がなければ、ごみは減量できない。値上げによってそれができるのかとの問いに対し、先行して値上げした知多地域での聞き取りでは、ごみの量が減り、資源が増えていること、市民の分別行動や意識の変化が起きていると考えていると答弁した。市はみどりを増やす方針であるのに、それにより発生する剪定枝についても値上げするのは矛盾しているとの問いに対し、排出量に合わせて負担していただくのは公平であると考えているが、剪定枝の扱いについて、他にも同様の意見をいただいていることから、検討していきたいと答弁した。

次に、ごみや資源の出し方に対するご意見について。プラスチック製容器包装の意味や分別方法がわかりにくいので、基準を示してほしいとの問いに対し、他にも同様の意見をいただいております、分別方法についてお知らせを工夫していく必要があると認識していると答弁した。プラスチック製容器包装だけでなく、プラスチック製品についても、分別回収できないかとの問いに対し、現在検討を行っているところであると答弁した。学生など若い世代が分別できていない傾向があるので、学生アパートや大学などをターゲットに啓発してほしいとの問いに対し、取り組む必要があると認識しており、工夫していきたいと答弁した。戸別回収は効率が悪く回収時間が遅い原因の一つとなっている。拠点回収にすれば時間短縮につながるのではないかとの問いに対し、拠点回収が進めば、回収時間の短縮につながることから、協力をお願いしていきたいと答弁した。

次に、ごみ袋の仕様に対する意見について。現在のごみ袋は裂けやすいので、丈夫な材質に変更してほしいとの問いに対し、検討していきたいと答弁した。プラスチック製容器包装の指定袋のSサイズを作してほしいとの問いに対し、検討していきたいと答弁した。もえるごみ袋Lサイズを34リットルから、他市町と同じ45リットルにできないかとの問いに対し、ごみの減量化につながらないことから、サイズを大きくすることは考えていないと答弁した。

上記の内容は抜粋であり、各会場で出た意見と回答は市ホームページにも掲載されているので参考としてほしい。

今後の動きについて。これまで実施した地域意見交換会の結果を踏まえ、令和4年第2回定例会にて議案を提出できるよう市としての方向性を検討していきたいと考えている。各会場でいただいた意見を検討していく必要があるため、整理して、市としての案を提示していきたいと考えている。

大島委員
環境課長

中止になった意見交換会については、どのように考えているか。

出た意見については、ホームページに回答を掲載している。大きな会場で、これまでに出了意見を披露しながらみんなで考えていこうとしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。地域意見交換会の全32回で終了したい。

大島委員 意見交換会の日程が平日の午前中にしか開催されていない。参加人数が少ないと思うが、これからも市民の意見を聴いていくのか。

環境課長 194人参加という数字が少ないかどうかはわからない。似たような意見が複数出てきており、出てくる意見はおおむねこの範囲であると考えている。決まった内容をどのような形でお知らせしていくのかは今の段階では考えていない。令和4年1月に意見交換会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で3月に延期され、それも中止となった。今から意見交換会を再度計画していくのは難しい。

大島委員 議会の一般質問に対しては、どのように受け止めているか。

環境課長 多くの方のご意見をまとめて質問されていると思う。全てを受け止めて考えていかなければならない。その上で相談し、議案を提出していきたい。

大島委員 相談相手には、議会も含まれているのか。

環境課長 一つずつ意見を見ながら市の内部で方針決定をしていくことになる。議案提出前には、あらかじめ内容を議会に示していきたいと考えている。

大島委員 これまで議会への相談というが、決定事項として話をされていると感じている。市民から1,883筆の署名が提出されたことはどう受け止めているか。

環境課長 多くの人から署名をいただいております。軽く受け止めるつもりはない。署名として出てきた意見は大切だと考えており、全てを踏まえて検討していきたい。

野村委員 値上げがなくても、ごみ収集車の増車をしていくのか。現段階で方向性はどのようなか。

環境課長 方向性は決まっていない。地域意見交換会でもさまざまな意見や提案をいただいたので、いろんな施策を考えていきたい。

山田(か)委員 地域意見交換会に来なかった人は、ごみ袋の値上げに対して、賛成していると考えているのか。

環境課長 参加者には、「反対」「なぜ今値上げなのか」「賛成」など、さまざまな意見の人がいた。地域意見交換会の出席者には、市の方針を説明し、それについては、ご理解いただいた。値上げ自体に賛成な人は、わずかではないかと考える。

山田(か)委員 公共施設にアンケートボックスを設置することもできたと思うが、なぜやらなかったのか。

環境課長 市の考え方を直接聞いてもらいたかった。そのため、各地域に出向いて直接お話しする機会を設けた。それ以外の方法では、紙の資料を読んでもらうことになる。そうすると、単に値上げに対して「反対」か「賛成」かという話になってしまうためアンケートは実施しなかった。減量に関する啓発、あらゆる媒体を使って数多くの市民に伝えたい。

山田(か)委員 以前配られたチラシは値上げに関する説明会になっているのではないか。

環境課長 このチラシを見て、内容が決定事項だと思ってしまう人がいることも把握している。地域意見交換会で、チラシの記載に配慮が足りなかったことも説明している。

山田(か)委員 以前からごみ減量について、お知らせはしていたと思うが、成果が出ていない。今回の問題はインパクトがあったので、これからごみ減量に取り組んでいく人もいると思うが、どう考えるか。

環境課長 これまで分別していただいた方もおり、もえるごみ袋のサイズがLからSに変わった人もいる。ごみ減量を啓発しても、なかなか実績にはつながらないので、この機会を無駄にはしたくない。ごみ減量は、やっていかなければならない課題である。

石じま委員 行政だけではできないこともあり、市民の協力を得ながら進めていく必要があると考える。値上げ前提で進んでいると受け止めた方がいることもあり、最初のアプローチに問題があったと感じている。ごみ袋を値上げして終わりではない。市民の協力が得られて初めてよい流れに進んでいくと考えるが、市はどう考えるか。

環境課長 回収方法や処分方法などのルールをつくるのは行政である。市民には、ルールに基づいて協力いただければごみ減量は達成できないため、ご理解とご協力をお願いしていく。

大島委員 市民の代表である議会の意見を聞いて進めていただきたいと考えているが、どうか。

環境課長 方針はできるだけ早い段階でまとめ、議会にも示していきたい。

委員長 この際、暫時休憩。

<午前 10 時 33 分休憩>

<午前 10 時 55 分再開>

委員長 休憩前に引き続き会議を再開。

なかじま委員 値上げ額の激変緩和措置は考えていないか。

環境課長 この案は減量効果が大きいと考えて提案した。いただいた意見を踏まえて検討していきたい。

なかじま委員 もえるごみ袋の価格に、ごみ処理手数料が含まれていることを知らない市民がいる。分別の仕分け先を増やすこと、回収時間を早くすることなど財源確保が必要であるという課題が出てきたと思う。財源確保と説明した方がわかりやすいとの意見も出ている。その中でも1枚50円を負担するのが厳しい世帯もあるということを考えて進めてほしいが、どうか。

環境課長 ごみの収集時間を早くするために財源確保が必要であるということではなく、ごみの減量が目的である。令和4年度は、令和3年度に取り組んできた市民への啓発を継続しつつ、市が管理運営する資源回収拠点を増やし、資源排出の利便性を高めていきたいと考えている。また、現

在燃えるごみの回収は戸別回収だが、それを一部拠点回収に移行していくことで収集時間短縮を図りたい。令和4年度は市でゴミ回収ボックスを購入し、例えば現在カラスネットを貸与している箇所をボックスに交換したり、地域の資源集積所にボックスを設置したりすることを想定している。その考えに変わりはない。

ささせ委員
環境課長

どのように市民と一緒に取り組んでいくのか。

戸別回収している場所もできる限り拠点回収にしていきたいと考えており、令和4年度に拠点回収用のゴミ回収ボックスの配付を考えている。まずは、自治会連合会、区長会などの大きな組織に、ゴミ回収ボックスがあるということを周知する。その後、自治会や組などの小さな単位に情報を流していく。例えば、資源ごみのかごが置いてある場所が持ち回りで移動していくところは難しいが、場所を固定してゴミを出している場所には比較的ゴミ回収ボックスを設置しやすいのではないかと考えている。そういった場所がある近くの組などに、市から話を持ちかけて相談していきたい。その中で、資源ごみを出す場所が毎年持ち回りで移動していくところでは、市民が苦勞していると聞いているので、そういった場所は市が中に入って進めていきたいと考えている。

委員長

質疑がないようなのもえるゴミ袋増額についての所管事務調査を終了する。

大島委員

(発言要求)

委員長

(発言許可)

大島委員

委員全員が意見や質疑をした。今回のもえるゴミ袋増額の問題は、ほとんどの委員が今の段階では納得できないと私は受け止めた。この問題に対して、委員会として市長に要望書を提出したいと思うが、どうか。

委員長

この提案に対して異議はないか。

山田(か)委員

この委員会に属していない議員からも意見を聞いて、議会として要望書を提出したほうがよいのではないか。

委員長

そのような取り扱いとしてよろしいか。

<異議なし>

委員長

閉会宣言

午前11時09分終了

以上、要点筆記は会議内容と相違ないので署名する。

令和4年3月14日

総務くらし建設委員会委員長 山田けんたろう